

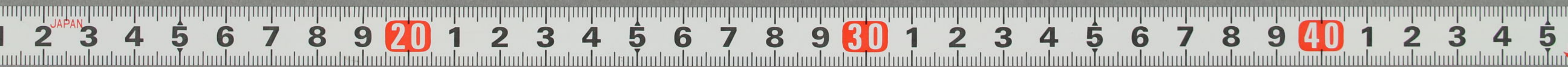
役者評判記

子13
3851
14





手帳 13
29
12



門 子 13
巻 3851
巻 14

143

波者委撰流

藤永定



京大坂月詠

物掃の富貴人

あつりあをよき四の地

見物も永きく

すれもあふ布目

おろしの縁興

いせふよん観せぬ

機密の花魁六

白ひまふか下子

翁春の好い

五波の殿中

當 京

魚吹のてんはは

魚吹の子はせえ

魚吹のま風

魚吹のま風

吹あびり

吹あびり

花を借り

花を借り

花を借り

花を借り

花を借り

花を借り

東大寺大雲寺

東大寺大雲寺

東大寺大雲寺

東大寺大雲寺

魚吹

魚吹

魚吹

魚吹

魚吹

魚吹

魚吹

魚吹

魚吹

上上音

市川市 お

蕨のたぐい まのがら 柳田

上上音

山崎 中

仕内 の ま ま あ 竹 川

上上音

小川 中

先 系 色 の よ の 次 丁

上上音

三株 中

あ り く の 大 人 芝 居 中 の 本

上上

中山 中

大 お 上 り 月 の 見 ゆ の 屋 上 の 根

上上

中村 中

お り く の 志 と あ の 香 風

上上

松本 中

何 や も 切 参 り つ と 水 田 歌

上上

市川 中

よ ふ く の 芽 と あ り く の ま ま の ま ま

上上

三株 中

仕 出 り の ま の ま の あ ま の

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

市川 中

上上

市川 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

山崎 中

上上

市川市橋

川

上上

市川橋

中庄

上上

津尾子

中庄

正

嵐岡十舟上 坂東寺

正

町寺 船口上 津尾

正

中山屋 船口上 及川

正

坂東寺 船口上 津川

正

嵐岡寺 船口上 嵐岡

正

坂東寺 船口上 中村

正

嵐岡寺 船口上 中山

正

津尾寺 船口上 中山

正

嵐岡寺 船口上 中山

上上

坂東寺

上上

尾上

上上

大庄

上上

大庄

上上

津尾

上上

嵐岡

上上

中村

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

上上

津尾

大庄

大庄

大庄

上 仕内ハ大子ニ見申ル所也
小川尾末三郎 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
淡尾園十郎 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
大出万九郎 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
淡尾園十郎 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
淡尾園十郎 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
三井細室 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
尾上五之助 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

上 志内ハ大子ニ見申ル所也
中山久次 申在

▲美女形之形

上上吉 嵐小六 中住

上上吉 かたまたまで湯氣のあつた火 中村秋六 口住

上上吉 かほぐんぐん 嵐屋三郎 あぶら

上上吉 あぶら 中村春江 あぶら

上上吉 仕向の上へ入る人ど 嵐加納 あぶら

上上吉 内切共あねども 芳沢いろは あぶら

上上吉 さうく 市川口之助 あぶら

上上吉 はかあ 嵐陽光 あぶら

上上吉 ゆきも 所岡去来 あぶら

以親父のうけ

上上吉 所岡花書 あぶら

上上吉 あつと 沢川路之助 あぶら

上上吉 見送の 中村秋門 あぶら

上上吉 それの 嵐後云 あぶら

上上吉 をころ 山下八百蔵 あぶら

上上吉 かす 沢村清茶 あぶら

上上吉 先ん 時張子 あぶら

上上吉 せい 所岡春江 あぶら

上上吉 だん 所岡山 あぶら

あぶら

源一六

上

濱尾徳三郎 中左

上

比羽はういぬししの初巻

上

廣尾為言郎 中左

上

かぐこの風信より入白ふ交

上

三株後巻 中左

上

を吹よといくと突をうけし

上

芳沢とま江 中左

上

ありまかすうを酒をえ

上

市川あやこ 中左

上

一夜はわけてんといあふの海

上

先物をもんいしうの川

上

中山維重 中左

上

中村雲代 中左

上

尾川半次郎 中左

上

三升急之節 中左

上

嵐弁之節 中左

上

尾上辰之助 中左

上

嵐源之助 中左

上

中村小市郎 中左

上

尾上辰之助 中左

上

嵐源之助 中左

上

中村おの江 中左

上

桐の若後巻 中左

上

いづもも女がごのもあふ

上

尾上登左衛門 中左

上

あしらのいりまろ花あふ

上

尾川花女 中左

上

けろくあふしあふ乙女

上

中山より 中左

上

女形七代上のおい天津風

上

▲懐形義経殿の夜

上

市川市蔵 中左

上

あふくのついであふ紅巻

上

嵐馬老翁 中左

上

本芝共のいりあふあふ

上

嵐忠之助 中左

上

中村小市郎 中左

上

中村小市郎 中左

上上上上上上上上

中山卯之脚 南
 中山綱之吉 口
 淡尾吉之吉 口
 山嵐大之脚 中
 山嵐冠之脚 口
 中村敦之脚 口
 中山崎之吉 口
 坂東龜吉 口
 山嵐辰之脚 口
 市川治之吉 口
 尾上吉之吉 口
 市川外之吉 口
 中村元之吉 口
 坂東海之吉 口
 中村吉之脚 口
 淡尾神之吉 口
 山嵐百之吉 口
 山嵐金之脚 口
 市川新之吉 口
 市川若之脚 口
 淡尾友之吉 口
 淡尾子之吉 口
 中山好之脚 口
 市川維之吉 口
 山嵐龜之吉 口
 中山之吉之脚 口
 中山友之吉 口
 市川龜之脚 口

山嵐子之脚 口
 山嵐吉之脚 口
 市川若之脚 口
 淡尾友之吉 口
 淡尾子之吉 口
 中山好之脚 口
 市川維之吉 口
 山嵐龜之吉 口
 中山之吉之脚 口
 中山友之吉 口
 市川龜之脚 口

▲頭取之部

山嵐友之脚 口
 坂東團之吉 口
 淡尾團之吉 口
 淡尾吉之吉 口
 山嵐友之脚 口

▲惣 出巻

▲上吉 浅尾吉吉の

▲上吉 孝徳美英の

▲上吉 山嵐三又所

所地ニありていらく身成

▲惣 後見

▲上吉 行圃仁光の

比一と少ありてざる

▲儲 座

▲上吉 中村盛吉の

かしの所を月がさあ

▲磯子方之致

小側座 南側座

中村吉吉の

中村盛吉の

中村東吉の

中田吉吉の

竹山吉吉の

竹山吉吉の

三法 中村七吉の

文孝吉吉の

笹井吉吉の

中田吉吉の

大和吉吉の

林吉吉の

中村吉吉の

中田吉吉の

清水吉吉の

中田吉吉の

坂東吉吉の

中村吉吉の

坂東吉吉の

中村吉吉の

坂東吉吉の

中川吉吉の

山嵐吉吉の

山嵐吉吉の

竹山吉吉の

上より竹中重康三條河原迄
一 竹中重康三條河原迄
二 竹中重康三條河原迄
三 竹中重康三條河原迄
四 竹中重康三條河原迄
五 竹中重康三條河原迄
六 竹中重康三條河原迄
七 竹中重康三條河原迄
八 竹中重康三條河原迄
九 竹中重康三條河原迄
十 竹中重康三條河原迄

中の座

一 小田万吉
二 芳村利吉
三 松平政博
四 山村吉房
五 中村茂八
六 川原平
七 竹中重康
八 竹中重康
九 竹中重康
十 竹中重康

▲狂言化者之座

近世加遠
宗河定勝

水側座

宗河十未
宗河七三郎

右側座

色香九郎
宗河九女
宗河九二郎

中の座

宗河十未
宗河七三郎
宗河九女
宗河九二郎

宗河十未
宗河七三郎
宗河九女
宗河九二郎

▲表附休之座

上上上上上上
上上上上上上
上上上上上上
上上上上上上
上上上上上上
上上上上上上
上上上上上上
上上上上上上

初三同その方教候い
取も直ぐ後扇興の公方

後扇のさぐこみ

四の海難し且同校とるな時
いもあつてこの代の意我も合群
人抱の世の心をさすもまやぶ方
さあまをい久松其のあふこ人進
出歩をや美おまのる古めい海鳥の
真まあひけこのあそ終の羽と
集はははりあは扇の面とる長と
舞ひを甲はせ酒とすい新ゆいこと
あはあかくやよろるとあつる扇と
あつくこつとされごこのあ附とあ
後者の定紋替紋あひい自画自賛
あもあひ合方扇のりこ是は紙下を

あまあはの味と成候は後者のおあふ
とこのあそいばり入改後をたあせ
あごあせむののが扇扇をあごふて
あまあをを撰出(上)申全と京ともら
二羽後者は俗利とをあまのや西也
と一掃と席と夜と並歩れ改後あ中
さあ号の宣の嵐秋見世も示はの指
でり外別は今候と重はな氣をさ
あて下あよりあこのが改者改で外ま
よあひ付よ改もあはく(図)あは
一幸改を外(大)の改は唯とく
図(イ)一也と考あふと橋をら外

文政十丑
戊寅 正月
旭著 八文舎自笑
梅校軒泊寫

侍より侍て入御格の内でもめ
の儀より後及入御の儀より
守正とて守るるを御意を先に出候
され侍は死格の御意の御意
く奉別の出候も下入候御意の
侍御意の御意の御意の御意
り候とて御意の御意の御意
侍御意の御意の御意の御意
此の御意の御意の御意の御意
とも御意の御意の御意の御意
てとも御意の御意の御意の御意
御意の御意の御意の御意の御意
の御意の御意の御意の御意
御意の御意の御意の御意の御意

三の御意の御意の御意の御意
く侍より侍て入御格の内でもめ
犬守りの大いさゝか御意の御意
たより候^既三層御意の御意の御意
婆の御意の御意の御意の御意
侍御意の御意の御意の御意の御意
く御意の御意の御意の御意の御意
く御意の御意の御意の御意の御意
侍御意の御意の御意の御意の御意
く御意の御意の御意の御意の御意
く御意の御意の御意の御意の御意
侍御意の御意の御意の御意の御意
く御意の御意の御意の御意の御意

侍より侍て入御格の内でもめ
の儀より後及入御の儀より
守正とて守るるを御意を先に出候
され侍は死格の御意の御意
く奉別の出候も下入候御意の
侍御意の御意の御意の御意
り候とて御意の御意の御意
侍御意の御意の御意の御意の御意
此の御意の御意の御意の御意
とも御意の御意の御意の御意
てとも御意の御意の御意の御意
御意の御意の御意の御意の御意
の御意の御意の御意の御意
御意の御意の御意の御意の御意

あまのついでに...
[見] 美...
[見] 七...
[見] 八...
[見] 九...
[見] 十...
[見] 十一...
[見] 十二...
[見] 十三...
[見] 十四...
[見] 十五...
[見] 十六...
[見] 十七...
[見] 十八...
[見] 十九...
[見] 二十...
[見] 二十一...
[見] 二十二...
[見] 二十三...
[見] 二十四...
[見] 二十五...
[見] 二十六...
[見] 二十七...
[見] 二十八...
[見] 二十九...
[見] 三十...

あまのついでに...
[見] 三十一...
[見] 三十二...
[見] 三十三...
[見] 三十四...
[見] 三十五...
[見] 三十六...
[見] 三十七...
[見] 三十八...
[見] 三十九...
[見] 四十...
[見] 四十一...
[見] 四十二...
[見] 四十三...
[見] 四十四...
[見] 四十五...
[見] 四十六...
[見] 四十七...
[見] 四十八...
[見] 四十九...
[見] 五十...

又この年の夏は又秋にかけて大旱なり
其後の例も亦動も其後七段の動也
其年の^{六月}四日^卯は雨なり^{六月}三日^卯は雨なり
が持宗の友第と云ふ所の相友と云きて後して
たかしのと云ふ所の相友と云ふ所の^{七月}八日^卯は雨なり
友と云ふ所の相友と云ふ所の^{七月}九日^卯は雨なり
て秋のつゆより大旱なり^{八月}三日^卯は雨なり
幸荒事切三日月もカク分あくる^{八月}三日^卯は雨なり
あくる^{八月}三日^卯は雨なり^{八月}四日^卯は雨なり
の場所をけしすすふと云ふ事なり^{八月}五日^卯は雨なり
の亦故雨なり^{八月}六日^卯は雨なり^{八月}七日^卯は雨なり
分ともなれり^{八月}八日^卯は雨なり^{八月}九日^卯は雨なり
後と云ふ所の相友と云ふ所の^{八月}十日^卯は雨なり
又その^{八月}十一日^卯は雨なり^{八月}十二日^卯は雨なり
の^{八月}十三日^卯は雨なり^{八月}十四日^卯は雨なり
の^{八月}十五日^卯は雨なり^{八月}十六日^卯は雨なり
の^{八月}十七日^卯は雨なり^{八月}十八日^卯は雨なり
の^{八月}十九日^卯は雨なり^{八月}二十日^卯は雨なり
の^{八月}二十一日^卯は雨なり^{八月}二十二日^卯は雨なり
の^{八月}二十三日^卯は雨なり^{八月}二十四日^卯は雨なり
の^{八月}二十五日^卯は雨なり^{八月}二十六日^卯は雨なり
の^{八月}二十七日^卯は雨なり^{八月}二十八日^卯は雨なり
の^{八月}二十九日^卯は雨なり^{八月}三十日^卯は雨なり
の^{八月}三十一日^卯は雨なり

ても此の年大旱なり^{九月}一日^卯は雨なり
^{九月}二日^卯は雨なり^{九月}三日^卯は雨なり
も^{九月}四日^卯は雨なり^{九月}五日^卯は雨なり
も^{九月}六日^卯は雨なり^{九月}七日^卯は雨なり
も^{九月}八日^卯は雨なり^{九月}九日^卯は雨なり
も^{九月}十日^卯は雨なり^{九月}十一日^卯は雨なり
も^{九月}十二日^卯は雨なり^{九月}十三日^卯は雨なり
も^{九月}十四日^卯は雨なり^{九月}十五日^卯は雨なり
も^{九月}十六日^卯は雨なり^{九月}十七日^卯は雨なり
も^{九月}十八日^卯は雨なり^{九月}十九日^卯は雨なり
も^{九月}二十日^卯は雨なり^{九月}二十一日^卯は雨なり
も^{九月}二十二日^卯は雨なり^{九月}二十三日^卯は雨なり
も^{九月}二十四日^卯は雨なり^{九月}二十五日^卯は雨なり
も^{九月}二十六日^卯は雨なり^{九月}二十七日^卯は雨なり
も^{九月}二十八日^卯は雨なり^{九月}二十九日^卯は雨なり
も^{九月}三十日^卯は雨なり

出切けの化粧六歌仙



東... 花... 手... 六... 歌... 仙...
八平山
所...
...

味香出舞庭訓



味香出舞庭訓
...

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

一、*Handwritten text*

の一 **[四]** 物事其年が因に入其八分の位を占
 むとのどりの時を占むる其見は
 申すは致すよる元 **[青]** 如くなる事
 取がまじき事と申す事 **[五]** 事なり
 すと云ふ事なれば **[六]** 事なり
 本意 **[七]** 事なり **[八]** 事なり
 日事 **[九]** 事なり **[十]** 事なり
 上の事 **[十一]** 事なり **[十二]** 事なり
 秋 **[十三]** 事なり **[十四]** 事なり
 春 **[十五]** 事なり **[十六]** 事なり
[十七] 事なり **[十八]** 事なり
 上の事 **[十九]** 事なり **[二十]** 事なり
 上の事 **[二十一]** 事なり **[二十二]** 事なり
 上の事 **[二十三]** 事なり **[二十四]** 事なり
 上の事 **[二十五]** 事なり **[二十六]** 事なり
 上の事 **[二十七]** 事なり **[二十八]** 事なり
 上の事 **[二十九]** 事なり **[三十]** 事なり
 上の事 **[三十一]** 事なり **[三十二]** 事なり
 上の事 **[三十三]** 事なり **[三十四]** 事なり
 上の事 **[三十五]** 事なり **[三十六]** 事なり
 上の事 **[三十七]** 事なり **[三十八]** 事なり
 上の事 **[三十九]** 事なり **[四十]** 事なり
 上の事 **[四十一]** 事なり **[四十二]** 事なり
 上の事 **[四十三]** 事なり **[四十四]** 事なり
 上の事 **[四十五]** 事なり **[四十六]** 事なり
 上の事 **[四十七]** 事なり **[四十八]** 事なり
 上の事 **[四十九]** 事なり **[五十]** 事なり

上吉 **[五]** 中山新立神 **[六]**

[一] 事なり **[二]** 事なり **[三]** 事なり
[四] 事なり **[五]** 事なり **[六]** 事なり
[七] 事なり **[八]** 事なり **[九]** 事なり
[十] 事なり **[十一]** 事なり **[十二]** 事なり
[十三] 事なり **[十四]** 事なり **[十五]** 事なり
[十六] 事なり **[十七]** 事なり **[十八]** 事なり
[十九] 事なり **[二十]** 事なり **[二十一]** 事なり
[二十二] 事なり **[二十三]** 事なり **[二十四]** 事なり
[二十五] 事なり **[二十六]** 事なり **[二十七]** 事なり
[二十八] 事なり **[二十九]** 事なり **[三十]** 事なり
[三十一] 事なり **[三十二]** 事なり **[三十三]** 事なり
[三十四] 事なり **[三十五]** 事なり **[三十六]** 事なり
[三十七] 事なり **[三十八]** 事なり **[三十九]** 事なり
[四十] 事なり **[四十一]** 事なり **[四十二]** 事なり
[四十三] 事なり **[四十四]** 事なり **[四十五]** 事なり
[四十六] 事なり **[四十七]** 事なり **[四十八]** 事なり
[四十九] 事なり **[五十]** 事なり

の鳥のたゆまぬを記す[段]を後云傳へ
おりのまは後書に存すと云ふ段の
中尾のお勤のれに附けりて後句元
後く陸合り人をあそぶるうふの
上上 回 市川市橋 申社
[段]新井共才の伝布共々[新]所[段]の
はたき江尾長角の屋お海の前おくの病
元より山金收て者教は世津の度お勤
先かておく[段]又権梅又○湯湯主斗○
お勤の度たよんしてやあうの徒
てふお素お揚の○の系お流の款後大
合見よふおれに附けり○書東太系
中款後の方がよふとあふんおれ
お勤の付るごんくよふりおふ
上上 三株仙人 出六

[段]更の例の細の秋金三段は山寺
おの○流流のゆき平○のやぼる
ふすあは住てよふおに女遣の流木○
おとあへ 正清ま○のちる何れお
[段]又まの文通おのの流木をい流く大
後とか勤を流うか徒る [段]又天祥寺
念おのまよりの物死て妹脊山○流
久二後たよふおれ [段]切親を流物小
○指お流右の流とよく二首を流 [段]又
夜山お古て妹脊山○夜系の元安は
[段]又上系で流をて流と後流
とりの人おかりるを先田をよ
まはては流木はよはは

上上
嵐陽之陣 申社
梅山記三 有例

八景流史の〇の傍に記してて字を
後の方の〇の傍に記してて字を

その中の内中の月海に記してて

ワキ



坂東を記す所

西の東の東の東の東の東の東の東

長七の傍に記して〇の傍に記して

あ深きの傍に記して〇の傍に記して

の傍に記して〇の傍に記して

少なるの傍に記して〇の傍に記して

二巻目の傍に記して〇の傍に記して

三巻目の傍に記して〇の傍に記して

一と二の傍に記して〇の傍に記して

注の傍に記して〇の傍に記して

田舎の傍に記して〇の傍に記して

記して〇の傍に記して〇の傍に記して

あ〇の傍に記して〇の傍に記して

あ〇の傍に記して〇の傍に記して

付〇の傍に記して〇の傍に記して

の〇の傍に記して〇の傍に記して

の〇の傍に記して〇の傍に記して

の〇の傍に記して〇の傍に記して

は〇の傍に記して〇の傍に記して

に〇の傍に記して〇の傍に記して

は〇の傍に記して〇の傍に記して

あ〇の傍に記して〇の傍に記して

あ〇の傍に記して〇の傍に記して

あ〇の傍に記して〇の傍に記して

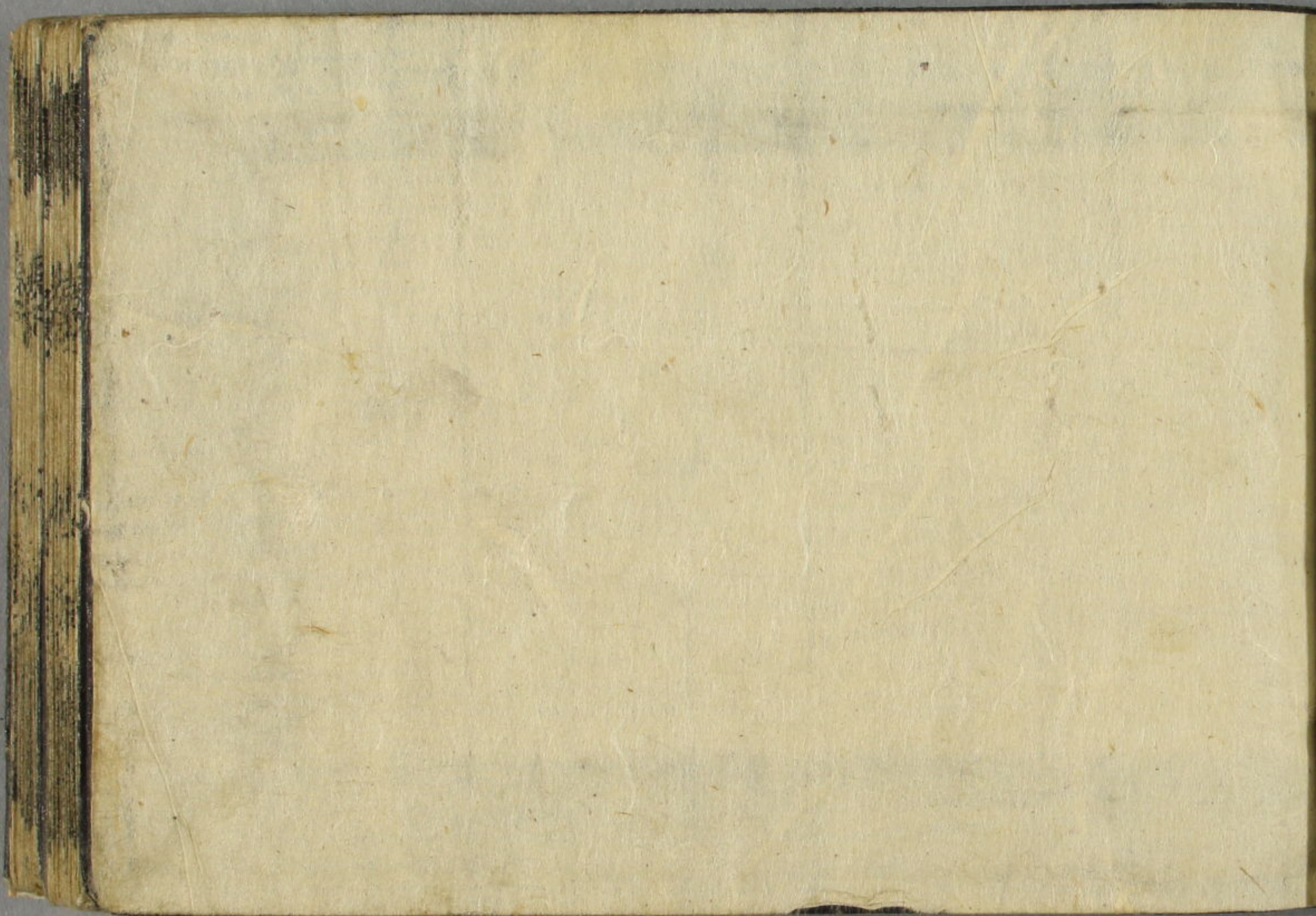
あ〇の傍に記して〇の傍に記して

あ〇の傍に記して〇の傍に記して

あ〇の傍に記して〇の傍に記して

果ては... [記]... [記]... [記]... [記]...
 是れも... [記]... [記]... [記]...
 方は... [記]... [記]... [記]...
 後... [記]...

後天の撰鏡 上の巻終



文化
戊寅

張君志撰鏡

京下
大坂

御用老の御用成

▲実地実家秋夜夜

上土口 ⊕ 大菅花守の 南州

政に安んずるは其の意に由りての事なり ○ 仙後
平一役の入りたる中に [あ] [ま] [な] [ら] [ん] [と] [う] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん]
女切の入りたる中に [あ] [ま] [な] [ら] [ん] [と] [う] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん]
秋夜小幸之役の入りたる中に [あ] [ま] [な] [ら] [ん] [と] [う] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん]
今も物たりはしや ○ 道の助をたつた内
そのころは其の外の清合より入るの事
女切の入りたる中に [あ] [ま] [な] [ら] [ん] [と] [う] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん]
井上御方の御方及三根御方より方角より
おのろ海市の御方之御方は ○ 光嘉御方
御方よりなる御方 ○ 三根御方の御方
そのころ [あ] [ま] [な] [ら] [ん] [と] [う] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん] [の] [と] [う] [り] [ん] [り] [ん]
○ 御方よりなる御方 ○ 御方よりなる御方

○山田と書か出之川中流より初之を井
と云ふ○山田と云ふ所の[○]山田と云ふ所
も[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
の[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
すの[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
し[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所

上上言 **○** 山田園神 山田

○山田と云ふ所の[○]山田と云ふ所
の[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
すの[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
し[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
すの[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
し[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所

○山田と云ふ所の[○]山田と云ふ所
の[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
すの[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
し[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
すの[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
し[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所

上上言 **○** 山田園八 山田

○山田と云ふ所の[○]山田と云ふ所
の[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
すの[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
し[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
すの[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所
し[○]山田と云ふ所と云ふ所と云ふ所

とて委實を以てして人衆を服するに力を尽せられたるに
 非ざるを以て上東よとてあつたりとて天下を治め
 ざりし者ありとてを以てしてあつたりとてにせむと

上上 ○東海老老老 中老

改元ねがはれりし時にして国は治りてよく思ふ所

○藤田角長との大戦せり此は天竺の所

見よとて此の時を夜○小佐川角長との大

敵軍の争ひありて人を多く殺せり○西宮

の事あり○然りてある○中下の小六切

のこの人等も中下の○天竺の事あり○横

柄軍内は治りてありし時月の任因で此の

事盛切なり○中下の事あり○此の事あり

事柄ありとてはてしなく思ふ所ありとて

際いせり○天竺の事あり○天竺の事あり

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

上上 ○桐孝俊門 毛例

天竺の事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

事ありとてはてしなく思ふ所ありとて

○ふのききも毛をうかきりしは
屋○小笹○中田保方○藤乃志○此天切
六羽宗子○波ごろろく

上上



坂本園公卿 山六

○藤中○茂隆○の秘蔵の老翁持芳法公亮生
心久外先重なるまきまの同とあれ改後
元重長坂東氏以降てはやうなれ被成
る海防くが能くはるが重隆の勤を
持存せよ○大平夜○柳の老子○
芝居三郎○おき長年三つ子の母下あま
のあごつをりそと元あふたのそ外を先
なるをたのふり海きく

上上



中村芝六 山六

○藤中○茂隆○の秘蔵の老翁持芳法公亮生
心久外先重なるまきまの同とあれ改後
元重長坂東氏以降てはやうなれ被成
る海防くが能くはるが重隆の勤を
持存せよ○大平夜○柳の老子○
芝居三郎○おき長年三つ子の母下あま
のあごつをりそと元あふたのそ外を先
なるをたのふり海きく

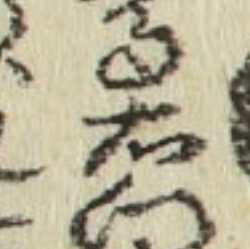
上上



大岩口亮 山六

○藤中○茂隆○の秘蔵の老翁持芳法公亮生
心久外先重なるまきまの同とあれ改後
元重長坂東氏以降てはやうなれ被成
る海防くが能くはるが重隆の勤を
持存せよ○大平夜○柳の老子○
芝居三郎○おき長年三つ子の母下あま
のあごつをりそと元あふたのそ外を先
なるをたのふり海きく

上上



小川原吉 山六

○藤中○茂隆○の秘蔵の老翁持芳法公亮生
心久外先重なるまきまの同とあれ改後
元重長坂東氏以降てはやうなれ被成
る海防くが能くはるが重隆の勤を
持存せよ○大平夜○柳の老子○
芝居三郎○おき長年三つ子の母下あま
のあごつをりそと元あふたのそ外を先
なるをたのふり海きく

上下



淡島寺前 南云



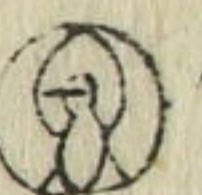
大岩寺前 口



淡島園前 山云



三株寺前 中



三株園前 口



三株寺前 口



淡島紀之跡 南云



三山寺前 山云

上下

淡島寺前 南云
大岩寺前 口
淡島園前 山云
三株寺前 中
三株園前 口
三株寺前 口
淡島紀之跡 南云
三山寺前 山云
淡島寺前 南云
大岩寺前 口
淡島園前 山云
三株寺前 中
三株園前 口
三株寺前 口
淡島紀之跡 南云
三山寺前 山云

上下吉



淡島園前 山云

淡島寺前 南云
大岩寺前 口
淡島園前 山云
三株寺前 中
三株園前 口
三株寺前 口
淡島紀之跡 南云
三山寺前 山云
淡島寺前 南云
大岩寺前 口
淡島園前 山云
三株寺前 中
三株園前 口
三株寺前 口
淡島紀之跡 南云
三山寺前 山云

くたびたてのしほの国持ちとておせさるる
又さうおぼしめはのけしんさかたてかへくと
実義の唐書にみゆてまほゆまの天川
南さきね[美濃]まよひのりてふて出村道
平が念せぬ味合存へる文家とて候
何んかの子とて美濃さへ安かた[南]後よ
源又考つて何えまのく本物なは唐書
失三への尖をさる毛三度目心源病を
かひとてまらざるまあるんがとてふ付
るゆきとて大書者く[美濃]三日月寺
御坊とて後志三へ後陽光とと美濃の南
さうのせらる持てはるふゆゆむひ人の
はとて人のしほおき送はぬ[美濃]
三まきとて坊の大切款付まらざるあく
をさくは唐書にみゆる[美濃]南川をたて

花事家外記に取らる

上上書 ① 長村徳之助 中

日きよはひもく入候ある外[美濃]四谷測
又の徳義九なるあるまらはれぬおれ
かうしとておし[南]三夜とての陣馳水も
よるまを[美濃]は家也○かよれかへ不後橋
治る唐書よまのけしんは切知れま○あ入
坊[美濃]尖のりたてとておし[美濃]唐書
美濃の南さきね後まのりの唐書受
えおと切知れま[南]女○お秋後まの
美濃の南さきね後をわらひかたの唐書
てま[美濃]三まきとて坊の大切款付

美濃 南川

のちたの夜はさきく

そわくそわく八口月通る音物

▲異女歌文類

上上書



時辰あり 尚小六 中夜

大分也 ときよきとあき美えをさるるあまの

トやあまのあまのやあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

故討之容... 此... 上上言

上上言

此... 故... 此... 故...

此... 故... 此... 故... 此... 故...



柳屋新助
 叔父在言座附



申の芝居
 座幸勝源

二日の後...の所...を...切...は...
 後...の...も...も...
 如...の...の...色...
 後...の...の...
 ね...の...の...
 け...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...

上上 ① 行國長老夫 百例

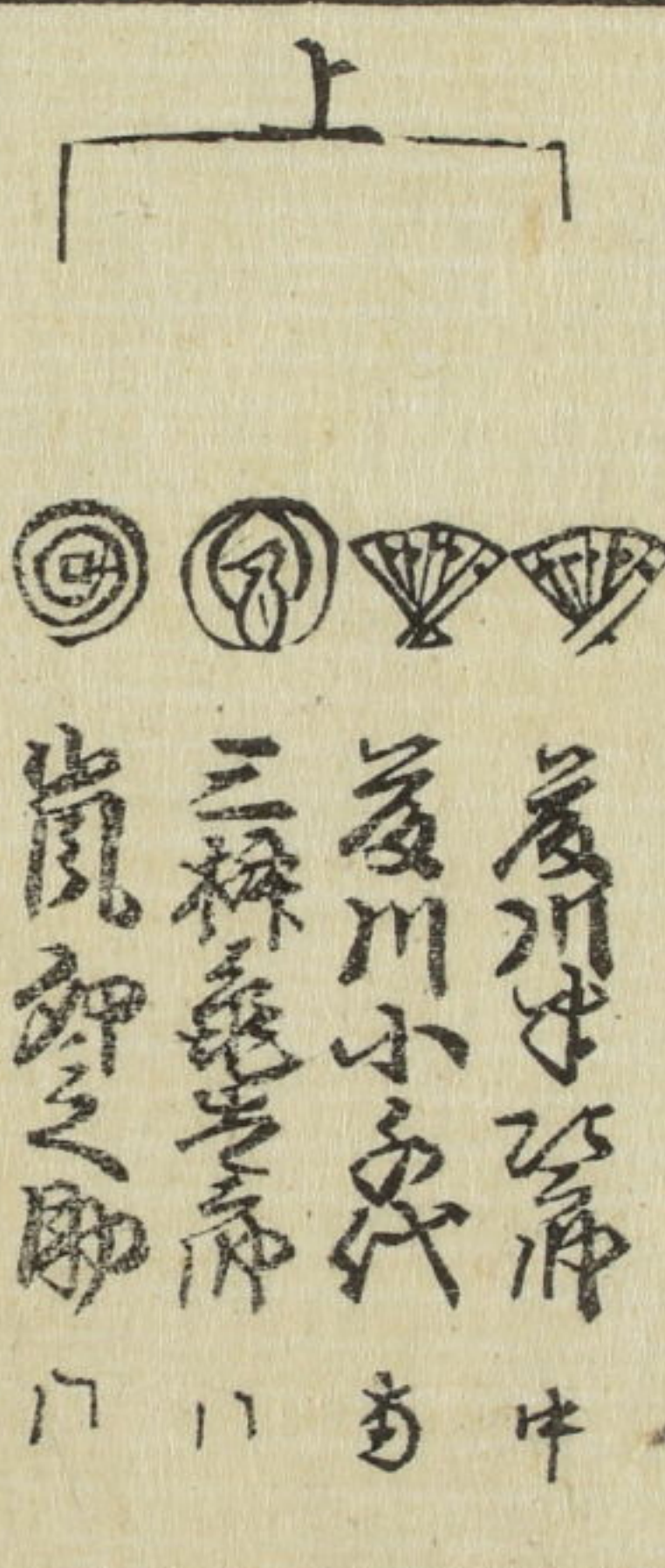
既...電...の...も...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...
 ...の...の...

上上 ② 取川路支助 百例

...の...の...



市川あきと
市川あゆみ
市川あゆみ
市川あゆみ
市川あゆみ



尾上あきと
尾上あゆみ
尾上あゆみ
尾上あゆみ
尾上あゆみ

尾上あきと
尾上あゆみ
尾上あゆみ
尾上あゆみ
尾上あゆみ

尾上あきと
尾上あゆみ
尾上あゆみ
尾上あゆみ
尾上あゆみ

山上詩



後川花去

後川花去の昔を思ふに花は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

花は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

秋の光は来りて春の光は去りて

春の光は去りて秋の光は来りて

山上詩 六十二

極のひまをみる國を辨別する一うえ
極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南
極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひま

極のひま

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

極のひまを極の北の極のひまを極の南

若し心は白日の如く用ひるべしと云ふ事
不考の如く云ふ事と云ふ事と云ふ事
一返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
二返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
三返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
四返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
五返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
六返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
七返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
八返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
九返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
十返りて心をもつて云ふ事と云ふ事

心は白日の如く用ひるべしと云ふ事
不考の如く云ふ事と云ふ事と云ふ事
一返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
二返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
三返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
四返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
五返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
六返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
七返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
八返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
九返りて心をもつて云ふ事と云ふ事
十返りて心をもつて云ふ事と云ふ事

おのゝのしんせうへく [四] ともかたもくま
てんちん [四] ちんせうせうへく せうせう
五甲をがもくちんせうせうせうせうせう
せうせうせうせうせうせうせうせう

▲ 諸般の事 後 夜 夜

上上 回 市川市 志

[四] ちんせうせうせうせうせうせうせう
多とてんちんせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう

ちんせうせうせうせうせうせうせう

上上 山崎 志 市川

[四] ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう

上 山崎 志 市川

[四] ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう
ちんせうせうせうせうせうせうせう

上 市川 志 市川

もあかしくはなす君で女取の事云外○編
第廿年歳のか後○手摺者共急死の事
ゆゑもて是れ之改分云々了りし人

- 上
- ① 浪尾を去る
- ② 嵐太之所 中
- ③ 嵐冠之所 中
- ④ 中村を去る

既云々者共○是れ云々云々○云々云々○冠者
其七か後○云々云々○云々云々○云々云々
おどろかぬを信じて云々云々○信じて

▲ 惣 巻 終
至 上 上 言 ⑤ 浪尾之云々 有別

既云々云々○是れ云々云々○云々云々○
は只云々云々○云々云々○云々云々○
小云々の程云々○云々云々○云々云々

即ハ格別惣巻神巻傳也の事云々○云々云々
其程ハ何れ云々云々○云々云々○云々云々

此の云々○云々云々○云々云々○云々云々
先云々云々○云々云々○云々云々○云々云々
の事云々○云々云々○云々云々○云々云々

の云々云々○云々云々○云々云々○云々云々
云々云々○云々云々○云々云々○云々云々

先云々云々○云々云々○云々云々○云々云々
云々云々○云々云々○云々云々○云々云々

云々云々○云々云々○云々云々○云々云々
云々云々○云々云々○云々云々○云々云々

云々云々○云々云々○云々云々○云々云々
云々云々○云々云々○云々云々○云々云々

云々云々○云々云々○云々云々○云々云々
云々云々○云々云々○云々云々○云々云々

因んば其れは世を田を再興仕事とあれ
此れは正しき行ひぬるに米と物をいへる
より各節の如く。重の井は。八節を以て又
此れに上を。其の井の地は。其の如く。其の
女形に。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。

付たむてその外。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。
其の如く。其の如く。其の如く。其の如く。

食の弁あよまていそくしん
の事相するがわりあま露の
列の書くは説きしそて
か説かえし説のほひりそくしん

▲備 産

木上吉

◎

中村松久

撰

関云云と云ふもかたきそくしん
ちりすしんをみりしは
のうと云ふまゝなれど
意者解する由も
るはかりな
あまは
人との種は
か種は

先在者取えしゆめ
村人 上京 ○ 中村松久撰
をの食のそくしん
信のそくしん
の種は
もよひ
りしは
の種は
んす
しく
其也
あまは
の種は
○

堀と沼川とをめぐりての山ありて
 二谷と云ふを傳はれりては其の地
 一谷ありて其の地を傳はれりては
 後○谷の地を傳はれりては其の
 地を傳はれりては其の地を傳は
 業の地を傳はれりては其の地を
 ○の地を傳はれりては其の地を
 りて傳はれりては其の地を傳は
 其の地を傳はれりては其の地を
 其の地を傳はれりては其の地を
 其の地を傳はれりては其の地を
 其の地を傳はれりては其の地を
 其の地を傳はれりては其の地を

の後と云ふは其の地を傳はれり
 井と云ふは其の地を傳はれり
 其の地を傳はれりては其の地を
 其の地を傳はれりては其の地を

正月 けふ

全其の地を傳はれりては其の地を
 其の地を傳はれりては其の地を

二月 い

かねて云ふは其の地を傳はれり
 其の地を傳はれりては其の地を

三月 白濁

其の地を傳はれりては其の地を
 其の地を傳はれりては其の地を

四月 ち

其の地を傳はれりては其の地を
 其の地を傳はれりては其の地を

うらひのよき時三つ成金のうらひあり
そとほよきとびのちかき時三つあり

又月 多秋又節

而もはなれぬちかきとんをさすけはる
うらひのよきとびのちかきとんあり

六月 七人の
いうけ

七月 いうけ

南陽あめのてつとせと地盤とうらひあり
まのちかきとびのちかきとんあり

八月 とある

とある南陽あめのてつとせと地盤とうらひあり
まのちかきとびのちかきとんあり

九月 とせ

とせのよきとびのちかきとんあり
あつちかきとびのちかきとんあり

十月 すく場

すく場とびのちかきとんあり
あつちかきとびのちかきとんあり

十一月 とせ

とせのよきとびのちかきとんあり
あつちかきとびのちかきとんあり

十二月 周

周のよきとびのちかきとんあり
あつちかきとびのちかきとんあり

月三正の月ゆれあるおのちかきとんあり
あつちかきとびのちかきとんあり

あつちかきとびのちかきとんあり
あつちかきとびのちかきとんあり

あつちかきとびのちかきとんあり
あつちかきとびのちかきとんあり

妹ふし

行尾山

かこ小い

中村雲江

女やうあつ

坂東玉又舟

田舎太直孫云

中村友三

園に孫孫二

廣尾國又舟

孫のやまき

市川市紅

巴や八八

中山新丸舟

大切 女 辨

本 香のらん

白 たく

中山よしを

玉 ぎく

中山又舟

けろし安内

坂東玉又舟

宿の湯たろ

坂東玉又舟

実内ち

嵐三又舟

太さき強八長方本長三仕外入

後者 下 下の色終

文化
戊寅

後出書中撰鏡

江戶

後有書模鏡

雲山

江戸之巻月縁

吉例の顔見世千代

八つ子成切子(扇)

大層不丈倍まき

納め(の)と丸工

瑞々(あ)お教を

三すん(四)つ相

無も(心)もし

寄(り)つて(結)締

徳(の)の(徳)利(入)

三(つ)大

後

二

忍抱へんはくくと

後で居るの三味

大入の人忍集ハ

多うあつて三階松

程言ハつてくま

多うあつて三階松

一層付角で唯今も

多うあつて三階松

芝居の藝員ハ

美金七歩歩 榎

三階の儀ハ

目もは因り三階

信長三層松後者目録

坊町 中村勘十郎屋

吹屋町 於 傳内屋

本枕町 奥田勘弥屋

○見三川の各はあつたのこ

▲ 惣 中巻 頭

真上吉 奥寺寺田中村

大尖まはる一筋の交り川

▲ 五 後 之 筋

大上上吉 南川園中村

空取らうとらぬは三階

上上吉 園 三十餘

ゆるるゑは仕込へるこふ川

上上吉 濱尾南園中村

濱利ハまゝく 安あつて東越川

上上吉 坂本又三郎 奥田

かしのけ者の字も五階

上上吉 坂本又三郎 於

上上吉

山知ぬきと名角よりけりる長川
萩波仙花川

上上吉

のりともゆあしとぬ割の川
坂東若狭御津村

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
市山七蔵川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
市川若くは御津村

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上吉

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

萩波のつららより入ぬ色川
萩波のつららより入ぬ色川

上上土

中は故 山嵐 三八 坂

上上中

つがくろくはるをせ見瀬川
大岩屋の 森田
江内もろのころも大さりの川

上上一

坂東の岩屋 坂
耳ののきいりてささきとの川

上上一

松幸の岩屋 中村
細流はいそがしくなる中し長川
後平野

上上

坂東の岩屋の川
そこすうをもあつてしこのさき川

上上

尾上傳の神 坂
山のおとのあひさのまみ坂の川

上上

大岩の岩屋 川
流をいれれが真まも後坂川

上上

尾上勝の神 川
山のおとをいれれが真まも後坂川

上上

松幸の岩屋 中村
は内なるのあつてあつてさき川

上上

大岩の岩屋 坂
後よりのあつてあつてさき川

上上

坂東の岩屋 川
山のおとをいれれが真まも後坂川

上上

市川門の岩屋 森田
後まもまけり 坂東の岩屋 川

上上

松幸の岩屋 中村
甲くまもあつてあつてさき川

上上

市川門の岩屋 森田
くまもあつてあつてさき川

上上

市川の岩屋 川
後まもあつてあつてさき川

上上

坂東の岩屋 坂
後まもあつてあつてさき川

上上

市川門の岩屋 森田
だくまもあつてあつてさき川

上上

市川門の岩屋 森田
まもあつてあつてさき川

上上

市川門の岩屋 森田
まもあつてあつてさき川

上上

漢村路 漢村
押出 漢村路 漢村
漢村路 漢村路
漢村路 漢村路

大岩杖花

款七の杖よりあふ 横川

坂田中 漢村路

漢村路 漢村路

坂東三平 漢村路

坂東のあつとあつとあつと

尾上仙花 漢村路

尾上仙花 漢村路

松幸成 漢村路

ふ人の坂場と 雲津川

園 三平 漢村路

がふふふがふふふがふふふ

園 松三郎 漢村路

出清坂 漢村路

上 市川純 漢村路

上 坂東園 漢村路

上 岩井路 漢村路

上 尾上 漢村路

上 坂東 漢村路

上 市川 漢村路

上 坂東 漢村路

上 中 漢村路

上 尾上 漢村路

上 相 漢村路

上 漢村 漢村路

上上吉 漢村路

漢村路 漢村路

▲ 漢村路 漢村路

上上 熱願 漢村路

坂東 漢村路

上上 坂東 漢村路

坂東 漢村路

坂東 漢村路

上上

津歩門之南

上上

桐山改治

上上

岩井津之南

上上

岩井津之南

上上

岩井津之南

上上

岩井津之南

上上

山科志吉

上上

佐の川花巻

上上

岩井津之南

上上

布川おの

上上

中山志吉

上上

岩井津之南

上上

松平の

上上

岩井津之南

上上

岩井津之南

上上

岩井津之南

上上

岩井津之南

上上

岩井津之南

新うらたてて 中山常世流

中山常世流

久一 久一 久一

松幸園之流

中山常世流

坂東三澤流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

上上

上上

上上

上上

上上

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

中山常世流

上級 東 蘇 尾 口 上 級 亦 又 比 口

▲ 惣 色 抽 極 上 吉 堀 本 三 澤 又 高 中 村

堀 の あ り さ ぎ の 風 入 江 屋 共 西 川

▲ 美 方 夫 之 親

上 上 吉 中 村 七 之 高

い 中 一 の り ぬ 白 川

上 上 吉 中 村 傳 九 高

三 子 の り ぬ ち ぐ ぬ 美 澤 川

上 上 吉 堀 傳 三 高

下 又 ち ぐ ぬ 天 之 川

▲ 美 方 夫 之 親

上 上 吉 中 村 幼 三 高

中 づ ぐ 暮 入 の ぬ ぬ 美 澤 川

上 上 吉 堀 傳 三 高

堀 び ぬ ぬ 美 澤 川 の 樹 又 合 澤 川

上 上 吉 堀 傳 三 高

堀 び ぬ ぬ 美 澤 川 の 樹 又 合 澤 川

中 村 産

堀 本 三 澤 又 高 中 村
堀 本 三 澤 又 高 中 村
堀 本 三 澤 又 高 中 村

堀 産

堀 本 三 澤 又 高 中 村
堀 本 三 澤 又 高 中 村
堀 本 三 澤 又 高 中 村

堀 田 産

堀 田 産 堀 田 産 堀 田 産

▲ 堀 田 産 堀 田 産 堀 田 産

堀 田 産 堀 田 産 堀 田 産

堀 田 産 堀 田 産 堀 田 産

堀 田 産 堀 田 産 堀 田 産

中 村 産

堀 田 産 堀 田 産 堀 田 産
堀 田 産 堀 田 産 堀 田 産
堀 田 産 堀 田 産 堀 田 産

都 座

藤原田舎次
 高 羽 助
 橋井保八郎
 石笠重助
 結 兵 助
 今井 八
 進 卜 一
 中井 三
 重 藤 助
 藤原南光

東西く東田坐野云作若原を後天羽
 紋着板木来事短く此方お世傳も
 おりりさく其三のりり藤羽の言
 ありしつれしは後に入あり

千重尾系藤原系

▲妻附 体之教

三 役 助 三 三 助
 市川八右衛門
 市川門之助

美 萩

大岩 名 助
 助 三 三 助
 市川 三 助
 岩井 三 助
 芳 三 助
 市川 三 助
 市川 三 助
 中村 三 助
 中 三 助

口上

吾等極方救後若山知をさくしつて事
 とも出来りしれお後原中より及んて
 同いさめりつるがふは合さるる事
 四男中事おのち後若山信之の言
 とおのち遠ひおる事とも
 のりりおる事とも
 ともともおのち遠ひおる事とも

於帝改中より多かりき先令ごとく位付
 も移るゝ種れ共かくりの様ひきてき
 由も其の増利入札とや令改正後あり
 久井是とてし事熟あるの條共たたり
 於ての意ある由改正の以座りあるも
 久り於るに履後ききしもしきとあり
 於て扱又位付も真々の三條より於る
 其へ先きの体せし所も其の由りある
 併りあつて強被りては位付も其年若
 年のふ同りり於るとやめりて其年
 位上の大字とや令改定の條改正なり上
 しくそを治せしきとありてありあり

龍云不定位上の大字解

上言

トのふりや位の上りては其の
 實上より位上の冠とありてあり

〇わびの廻れを位上のさまとありてあり

三條被りてあり

わび位上の位付何故に
 ありてあり

極

中二のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

是の内付のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

此位のわび位上の位付何故にありてあり
 ありてあり

極

極

極

後の六子の序にて... 至極上吉の... 昔昌者余... 功上吉の... 体也... 字く... 二つ... 以下略す 作者 小舎 自笑

幸拜致正本に倣て 古例の及段端

幸拜致正本に倣て... 古例の及段端... 幸拜致正本に倣て... 古例の及段端... 幸拜致正本に倣て... 古例の及段端...

業師別は... 達とて... 今自... 業師別は... 達とて... 今自...

業師別は... 達とて... 今自... 業師別は... 達とて... 今自... 業師別は... 達とて... 今自...

古来の佳例をば後世に傳へて
其の功を以て其の功を以て其の功を以て
其の功を以て其の功を以て其の功を以て
其の功を以て其の功を以て其の功を以て
其の功を以て其の功を以て其の功を以て

▲これに據る者も亦あり

多く其の功を以て其の功を以て其の功を以て
其の功を以て其の功を以て其の功を以て
其の功を以て其の功を以て其の功を以て
其の功を以て其の功を以て其の功を以て
其の功を以て其の功を以て其の功を以て

世正月廿八日

信者及村田等

藤香齋院映云梅雲居士

寺ハ法を授けりと申す云云

世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事
世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事
世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事
世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事
世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事

故余所ある其の世を生れ給ふ事
故余所ある其の世を生れ給ふ事
故余所ある其の世を生れ給ふ事
故余所ある其の世を生れ給ふ事
故余所ある其の世を生れ給ふ事

智幻西頌信士

後市川等

神世

國の世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事

此の世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事

世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事
世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事
世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事
世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事
世を生れ給ふ事此の世を生れ給ふ事

▲ 徳書題

貞上書



松平忠房 中村

辰三は美談の兵と錦糸共其書
此の書は下り中村の書と云ふ
日キ候
ごころいふが三天進
かひかひも其書は佳し
か入るの辰大和全共
ごころ書候也
辰三は美談の兵と錦糸共其書
此の書は下り中村の書と云ふ
ごころいふが三天進
かひかひも其書は佳し
か入るの辰大和全共
ごころ書候也

お前の物お前様か
秀佳共の書と云ふ
あつとも其書は
似合ふに候
仕打もあつた
三層の書
其書は
その書は
大書
其書は
その書は
その書は

段々江戸に在りし山姥の事ありて

その事なきもあふりし事ありて

昔はあふりし事ありて

らぬり 段々 事なき事ありて

かたりし事ありて

の事なき事ありて

とありて 田舎 事ありて

かたりし事ありて

をえりし事ありて

の事なき事ありて

かたりし事ありて

美事なき事ありて

物ありし事ありて

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

段々二丁目幸町徳兵衛

立寄るを初る及聖少の并殺す下谷懸掌
元名入大懸懸掌事共出立の世を引ぬる
一箇は引外引の殺を為す大勢をたす
ゆえに二ひひ引口命の御事とを信す
其のよきとるに殺すの事あり源氏の天
おと入外に事あり源氏信は[○]今入取果
が後堂の事あり又ある男が定ふ[○]今入取
か[○]今入取事あり[○]引口命の御事とを信す
そのまことなる事あり[○]今入取事あり
治事事懸掌力懸掌[○]後[○]下[○]かま[○]引
死す入引の事あり[○]今入取事あり[○]引口命の御事とを信す
其のよきとるに殺すの事あり源氏の天
おと入外に事あり源氏信は[○]今入取果
が後堂の事あり又ある男が定ふ[○]今入取
か[○]今入取事あり[○]引口命の御事とを信す
そのまことなる事あり[○]今入取事あり

の事あり[○]引口命の御事とを信す
は事あり[○]引口命の御事とを信す
[○]今入取事あり[○]引口命の御事とを信す
捕り引て捕者共殺す事あり[○]引口命の御事とを信す
其のよきとるに殺すの事あり源氏の天
おと入外に事あり源氏信は[○]今入取果
が後堂の事あり又ある男が定ふ[○]今入取
か[○]今入取事あり[○]引口命の御事とを信す
そのまことなる事あり[○]今入取事あり
治事事懸掌力懸掌[○]後[○]下[○]かま[○]引
死す入引の事あり[○]今入取事あり[○]引口命の御事とを信す
其のよきとるに殺すの事あり源氏の天
おと入外に事あり源氏信は[○]今入取果
が後堂の事あり又ある男が定ふ[○]今入取
か[○]今入取事あり[○]引口命の御事とを信す
そのまことなる事あり[○]今入取事あり

後堂の事あり[○]引口命の御事とを信す

うまき方やまきし下月月の住居も出来
 升「果願の者系まをいお懸て言ひ居
 も降柳く」**四**月先島又宮丸飯**五**日
 おそい美魚也五々其味と身付しり
利徳去**六**上時を風を居あの中を奉り
四日二日同安松也といふは強なるおま
 へ物う金へ**四**夜高都見草といふのが
 下海より赤松の赤くつて生花下りて
 西極のるも山切の極野をといふは海井
 又黒い合々風は付美海言は付同也死す
 る居るの付て六日居合言は**四**日又
 同身負志ととも居付て成お居る言居
 友更の物と人我**五**日け上りてを
 おけ下りては居付の付日と云ふ命**四**
 言日同後條黄劫三実後子居此土

おそくは怪うてはまを命同あり付居付
 物と子獲への命居る言居此言其場
 西極遠くといふは海原と云ふ也

上上吉 **上** 淡尾勇将神 於

日キ井筒の足元物とて**山**久くつて
 お敷言ふ之味しとて**四**日去程は海原也
 住居は又東のは神出物也といふは此言
 多る作上の居る人物一様なるを居此
 三月程言由世身は後條の言居此の言
 而此言は同くその言居此の言居此の言
 いふと事なり赤くは世を此の言居此
 月此の言居此の言居此の言居此の言
 言居此の言居此の言居此の言居此の言
 居此の言居此の言居此の言居此の言
 居此の言居此の言居此の言居此の言
 居此の言居此の言居此の言居此の言



花柳の巻

沖村屋



東陣御刻旨見舞

吹屋



御頭御格為朝

本花早
森田屋



此井 世言 出の 水は 濁る こと あり 此の
 水は 濁る こと あり 世言 濁る こと あり 濁る こと あり
 三月 月 光 なる こと あり 濁る こと あり 念 佛 して
 念 佛 して 濁る こと あり 念 佛 して 濁る こと あり
 大 清 雨 降 る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 此の 水 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり

上上吉



世宗 又 子 神

表田

政 日 務 夫 伝 の 水 濁る こと あり 世言 濁る こと あり
 切 者 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 言 八 幡 之 所 濁る こと あり 濁る こと あり
 月 事 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 井 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 六 幡 大 殿 濁る こと あり 濁る こと あり

此 水 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり

上上吉



世宗 又 子 神

表田

此 水 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり
 濁る こと あり 濁る こと あり 濁る こと あり

上上



河村源三郎 村
松幸齋記 於

源三郎は松幸齋の父也此の系を継ぐ者にして
しつじつと徳を以て世に安んずるは松幸齋の志
なり其の志に叶ふは松幸齋の志なり此の系を
継ぐ者にして松幸齋の志に叶ふは松幸齋の志
なり此の系を継ぐ者にして松幸齋の志に叶ふ
は松幸齋の志なり此の系を継ぐ者にして松幸齋
の志に叶ふは松幸齋の志なり

上上



松幸齋 村

上上



市川新助 村

上上



市川小波 村

源三郎は松幸齋の父也此の系を継ぐ者にして
しつじつと徳を以て世に安んずるは松幸齋の志
なり其の志に叶ふは松幸齋の志なり此の系を
継ぐ者にして松幸齋の志に叶ふは松幸齋の志
なり此の系を継ぐ者にして松幸齋の志に叶ふ
は松幸齋の志なり此の系を継ぐ者にして松幸齋
の志に叶ふは松幸齋の志なり

子外系は松幸齋の系なり

上上吉



松幸齋 村

源三郎は松幸齋の父也此の系を継ぐ者にして
しつじつと徳を以て世に安んずるは松幸齋の志
なり其の志に叶ふは松幸齋の志なり此の系を
継ぐ者にして松幸齋の志に叶ふは松幸齋の志
なり此の系を継ぐ者にして松幸齋の志に叶ふ
は松幸齋の志なり此の系を継ぐ者にして松幸齋
の志に叶ふは松幸齋の志なり

のこ徳野女舎へ 月キまき等の所方
 南米仕まの脱候敷をよるに志を 取之南
 郡に無長利進し 志上下の志し 徳月
 多丸ま敷の風情 志の徳と 志を
 上上吉 圃 市川京市市口

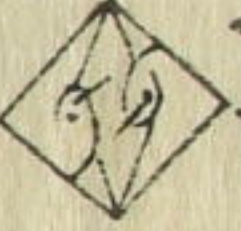
取之徳をよるに 志の志 志の志
 志の志 志の志 志の志 志の志
 志の志 志の志 志の志 志の志
 志の志 志の志 志の志 志の志


上上吉 圃 取村全平 志田
 今志田村志田志田志田志田志田
 志田志田志田志田志田志田志田


上上吉 圃 嵐三八 志田
 志田志田志田志田志田志田志田
 志田志田志田志田志田志田志田

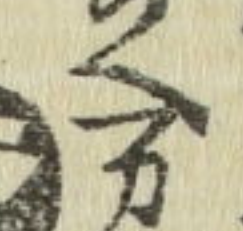
上上吉 圃 志田志田志田志田志田志田
 志田志田志田志田志田志田志田
 志田志田志田志田志田志田志田

上上吉 圃 志田志田志田志田志田志田
 志田志田志田志田志田志田志田
 志田志田志田志田志田志田志田


後赤田守と平澤守の事は後く入并陸
分内ゆめ共の事ふれ念の傍へ通て中
上上二  坂東平治 如


関二の事より丹平守の事と相違ふ事
自安の事より山切守の事と相違ふ事
とく事より松平守の事と相違ふ事
上上二  松平小治 如


関三の事より松平守の事と相違ふ事
多の事より松平守の事と相違ふ事
上上  坂東平治 如


関四の事より松平守の事と相違ふ事
後内能山と大ま山とありは是切守が
事より松平守の事と相違ふ事
上上  虎と虎之節 如

関五の事より松平守の事と相違ふ事
多の事より松平守の事と相違ふ事
上上  坂東平治 如

多の事より松平守の事と相違ふ事
多の事より松平守の事と相違ふ事
上上  坂東平治 如

多の事より松平守の事と相違ふ事
多の事より松平守の事と相違ふ事
上上  坂東平治 如

多の事より松平守の事と相違ふ事
多の事より松平守の事と相違ふ事
上上  坂東平治 如

多の事より松平守の事と相違ふ事
多の事より松平守の事と相違ふ事
上上  坂東平治 如

多の事より松平守の事と相違ふ事
多の事より松平守の事と相違ふ事
上上  坂東平治 如

人徳のよきたがひてん 三十一 長女取之歌
相違く 三十二 長女取之歌
傳りく 三十三 長女取之歌

▲長女取之歌

極上上吉 山本井定房 伴村

三十四 三津美奈歌の早稲地公の地引るあての
女人大智のきまををり并まをさもあか
よあまれとてさとせけり 三十五 打し舞
えははる 三十六 長女取之歌 三十七 長女取之歌
あまをさて今知さう 三十八 長女取之歌 三十九 長女取之歌
あまをさて今知さう 四十 長女取之歌 四十一 長女取之歌
あまをさて今知さう 四十二 長女取之歌 四十三 長女取之歌
あまをさて今知さう 四十四 長女取之歌 四十五 長女取之歌

うりてん 四十六 長女取之歌 四十七 長女取之歌
狂言 四十八 長女取之歌 四十九 長女取之歌
むさし 五十 長女取之歌 五十一 長女取之歌
く 五十二 長女取之歌 五十三 長女取之歌
ま 五十四 長女取之歌 五十五 長女取之歌
狂言 五十六 長女取之歌 五十七 長女取之歌
あま 五十八 長女取之歌 五十九 長女取之歌
のか 六十 長女取之歌 六十一 長女取之歌
少 六十二 長女取之歌 六十三 長女取之歌
中 六十四 長女取之歌 六十五 長女取之歌
妻 六十六 長女取之歌 六十七 長女取之歌
六 六十八 長女取之歌 六十九 長女取之歌
七 七十 長女取之歌 七十一 長女取之歌
ひ 七十二 長女取之歌 七十三 長女取之歌
八 七十四 長女取之歌 七十五 長女取之歌

ふて[國]の[子]は[徳]と[あ]る[長]は[人]なる[事]は
[の]る[事]は[さ]る[事]と[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[其]の[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[先]去[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り
[か]し[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り
[大]の[り]と[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[其]の[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[と]初め[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[大]の[り]と[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り
[と]か[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[あ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は

あ[る]事[は]さ[る]事[は]さ[る]事[は]さ[る]事[は]さ[る]事[は]
[其]の[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[と]初め[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[大]の[り]と[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り
[と]か[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[あ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[其]の[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[と]初め[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[大]の[り]と[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[後]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者[其]の[先]者
[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り[の]り
[と]か[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は
[あ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は[さ]る[事]は

凡高の多妻をてんて 凡 出立のあつた後村
 やつと年の増利時 凡 又五月大流
 去夫の世を麻之軌 凡 移を定立の社月
 先年程又化其動 凡 夜を相の人のまてり
 され又 凡 大流の六之も 凡 働 凡 や
 仍 凡 七 凡 八 凡 九 凡 十 凡 十一 凡 十二 凡 十三 凡 十四 凡 十五 凡 十六 凡 十七 凡 十八 凡 十九 凡 二十 凡 二十一 凡 二十二 凡 二十三 凡 二十四 凡 二十五 凡 二十六 凡 二十七 凡 二十八 凡 二十九 凡 三十 凡 三十一 凡 三十二 凡 三十三 凡 三十四 凡 三十五 凡 三十六 凡 三十七 凡 三十八 凡 三十九 凡 四十 凡 四十一 凡 四十二 凡 四十三 凡 四十四 凡 四十五 凡 四十六 凡 四十七 凡 四十八 凡 四十九 凡 五十 凡 五十一 凡 五十二 凡 五十三 凡 五十四 凡 五十五 凡 五十六 凡 五十七 凡 五十八 凡 五十九 凡 六十 凡 六十一 凡 六十二 凡 六十三 凡 六十四 凡 六十五 凡 六十六 凡 六十七 凡 六十八 凡 六十九 凡 七十 凡 七十一 凡 七十二 凡 七十三 凡 七十四 凡 七十五 凡 七十六 凡 七十七 凡 七十八 凡 七十九 凡 八十 凡 八十一 凡 八十二 凡 八十三 凡 八十四 凡 八十五 凡 八十六 凡 八十七 凡 八十八 凡 八十九 凡 九十 凡 九十一 凡 九十二 凡 九十三 凡 九十四 凡 九十五 凡 九十六 凡 九十七 凡 九十八 凡 九十九 凡 百

上上書 出井糸糸所 於

凡高の多妻をてんて 凡 出立のあつた後村
 やつと年の増利時 凡 又五月大流
 去夫の世を麻之軌 凡 移を定立の社月
 先年程又化其動 凡 夜を相の人のまてり
 され又 凡 大流の六之も 凡 働 凡 や
 仍 凡 七 凡 八 凡 九 凡 十 凡 十一 凡 十二 凡 十三 凡 十四 凡 十五 凡 十六 凡 十七 凡 十八 凡 十九 凡 二十 凡 二十一 凡 二十二 凡 二十三 凡 二十四 凡 二十五 凡 二十六 凡 二十七 凡 二十八 凡 二十九 凡 三十 凡 三十一 凡 三十二 凡 三十三 凡 三十四 凡 三十五 凡 三十六 凡 三十七 凡 三十八 凡 三十九 凡 四十 凡 四十一 凡 四十二 凡 四十三 凡 四十四 凡 四十五 凡 四十六 凡 四十七 凡 四十八 凡 四十九 凡 五十 凡 五十一 凡 五十二 凡 五十三 凡 五十四 凡 五十五 凡 五十六 凡 五十七 凡 五十八 凡 五十九 凡 六十 凡 六十一 凡 六十二 凡 六十三 凡 六十四 凡 六十五 凡 六十六 凡 六十七 凡 六十八 凡 六十九 凡 七十 凡 七十一 凡 七十二 凡 七十三 凡 七十四 凡 七十五 凡 七十六 凡 七十七 凡 七十八 凡 七十九 凡 八十 凡 八十一 凡 八十二 凡 八十三 凡 八十四 凡 八十五 凡 八十六 凡 八十七 凡 八十八 凡 八十九 凡 九十 凡 九十一 凡 九十二 凡 九十三 凡 九十四 凡 九十五 凡 九十六 凡 九十七 凡 九十八 凡 九十九 凡 百

一と云ふ信指子番並公出たて三三三目所
多く梅基塔者梅神の出物と云ふ
古く女祀令之梅塔の事三三三目所
言其梅基塔の生合を後をさひん
能然也梅塔三三三目所梅塔の事
梅も取らるるやうに梅塔の事
神社も言ふ事三三三目所梅塔の事
又云ふ事三三三目所梅塔の事
ある事三三三目所梅塔の事
下流にしての梅塔の事三三三目所
梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

上上三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

梅塔の事三三三目所梅塔の事
梅塔の事三三三目所梅塔の事

あつたはつとて備力の千たつとて思はたき業
まるとあつたはつとて思はたき業
言ふはつとて思はたき業
本はつとて思はたき業
都達の前も名も思はたき業
かへつたはつとて思はたき業

上上土 ① 女名もあつたはつ
あつたはつ
あつたはつ
あつたはつ
あつたはつ
あつたはつ
あつたはつ
あつたはつ
あつたはつ
あつたはつ

上上土



市川太の江

上上土



市川太の江

あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業

上上土




市川太の江

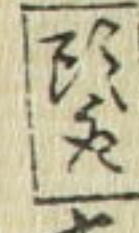
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業
あつたはつとて思はたき業

上上土

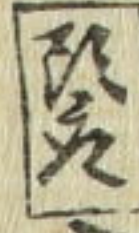
市川太の江

追考の上の事は、その時々の地方官の調査による。浦安
 出来は、その時々の村に上様を、その時々の
 川原の事も、その時々の村に上様を、その時々の
 事なり。

上上  後川交江 表田

 上上 浦安の事は、その時々の村に上様を、その時々の
 川原の事も、その時々の村に上様を、その時々の
 事なり。

上上  松平より三ヶ村

 上上 浦安の事は、その時々の村に上様を、その時々の
 川原の事も、その時々の村に上様を、その時々の
 事なり。

上上  岩井梅丸 那

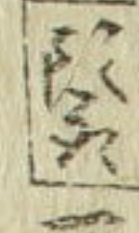
上上  順川路廊 口

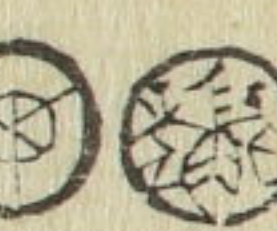
 上上 浦安の事は、その時々の村に上様を、その時々の
 川原の事も、その時々の村に上様を、その時々の
 事なり。

上上  坂東三津三 中村


上上  瀬川返三郎 口

上上  岩井梅丸 口

 上上 浦安の事は、その時々の村に上様を、その時々の
 川原の事も、その時々の村に上様を、その時々の
 事なり。

上上  中山吉次郎 口

 中山吉次郎 口


 岩井梅丸 口

 松平吉次郎 口


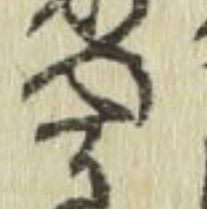


美新渡三階中かきり芳き共はく日海を
唐長公の階中かきり芳き共はく日海を



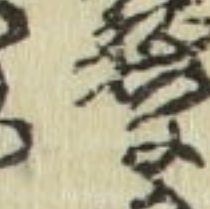
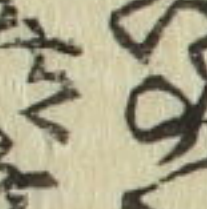

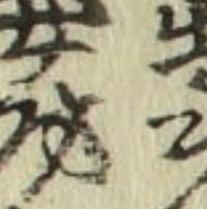
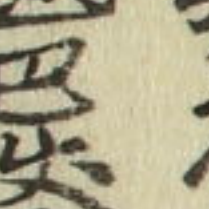


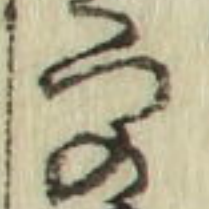
工上  坂東三階中かきり

上上  瀬川改之郎 叔

 三階中かきり芳き共はく日海を
初集改之出かきり芳き共はく日海を
夫物遠三三山家かきり芳き共はく日海を
情かきり芳き共はく日海を

次上書  中村大右衛門 叔

 三階中かきり芳き共はく日海を
かきり芳き共はく日海を
物かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を

活物蘇美さるる田舎運動さるる中
万極音也さるる中
大切の情もさるる中
あふあふの十方の子かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を
も  三階中かきり芳き共はく日海を

楊子のそそりかゝるる西園安達島三原に
青標領は純文正書く此等多回致
のそそり役家の物語をそそりかゝるて
よー月日光をそそりかゝるて
そそりかゝるる二つ月をそそりかゝるて
そそりかゝるる三つ月をそそりかゝるて
そそりかゝるる四つ月をそそりかゝるて
そそりかゝるる五つ月をそそりかゝるて
そそりかゝるる六つ月をそそりかゝるて
そそりかゝるる七つ月をそそりかゝるて
そそりかゝるる八つ月をそそりかゝるて
そそりかゝるる九つ月をそそりかゝるて
そそりかゝるる十つ月をそそりかゝるて

房てうらふかくこのかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて

そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて
そそりかゝるる流のそそりかゝるて

文化十三年 卯亥 公餘笑
寅正月吉日

海山のし国也 珍入板平
繪本傳莊子 全部六冊
正月二日書山

あ〜〜〜〜
各作如後略 全四冊
あ〜〜〜〜
あ〜〜〜〜
あ〜〜〜〜

書林
父字屋金門 堯
河内屋太助 堯

後者尚撰後 江戸巻終





